

# 製品安全データシート

製品名：ウインザー スープリーム タッピング コンパウンド エアゾール

作成日：2013年2月8日

## 1. 製品及び会社情報

製品名：ウインザー スープリーム タッピング コンパウンド エアゾール

製品コード：2301

MSDS整理番号：STCS 1/6

会社名：旭エンジニアリング株式会社

住所：〒553-0002 大阪府大阪市福島区鷺洲4-4-3

担当部門：管理部

電話番号：06-6452-5811

FAX番号：06-6452-5770

緊急連絡先：旭エンジニアリング株式会社・営業部、管理部

緊急連絡電話番号：06-6452-5811

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類 石油精製油

物理化学的危険性：	引火性液体	分類できない (但し区分1-3)
健康に対する有害性：	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
	標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	区分2 (肝臓、精巣)
	吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性：	水生環境有害性 (急性)	区分1
	水生環境有害性 (慢性)	区分1

### GHS分類 ミネラルスピリット

健康に対する有害性：	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	発がん性	区分1A

### GHS分類 プロパン・ブタン化合物

物理化学的危険性：	可燃性/引火性ガス	区分1
	高压ガス	液化ガス
健康に対する有害性：	標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分3 (麻酔作用)
	急性毒性 (吸入：ガス)	区分4
	標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分2 (心臓)
	高压ガス	液化ガス

## ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険

警告

危険有害情報：

極めて引火性の高い液体および蒸気

引火性の高い液体および蒸気

引火性液体および蒸気

皮膚刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気またはめまいのおそれ

長期または反復暴露による臓器（肝臓、精巣）の障害のおそれ

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

皮膚刺激

眼刺激

発がんのおそれ

高圧ガス；熱すると爆発するおそれ

眠気やめまいのおそれ

吸入すると有害

臓器（心臓）の障害のおそれ眠気又はめまいのおそれ

\*記載のないものは分類対象外または分類できない

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

・成分/含有量：石油精製油 &lt;20%

CAS 番号：企業秘密のため非公開

化審法：－（特定できず）

PRTR 法：－（該当せず）

安衛法：企業秘密のため非公開

EINECS：企業秘密のため非公開

・成分/含有量：植物油 <5%  
 CAS 番号：企業秘密のため非公開  
 化審法：企業秘密のため非公開  
 PRTR 法：－（該当せず）  
 安衛法：－（特定できず）  
 EINECS：企業秘密のため非公開

・成分/含有量：ミネラルスピリット <20%  
 CAS 番号：企業秘密のため非公開  
 化審法：－（特定できず）  
 PRTR 法：－（該当せず）  
 安衛法：企業秘密のため非公開  
 EINECS：企業秘密のため非公開

・成分/含有量：プロパン・ブタン化合物  
 CAS 番号：企業秘密のため非公開  
 化審法：企業秘密のため非公開  
 PRTR 法：－（該当せず）  
 安衛法：－（特定できず）  
 EINECS：企業秘密のため非公開

分類の名称 高圧ガス（可燃性ガス）

	引火性液体
危険性	蒸気は空気と一体の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。 蒸気は容易に発火する。可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
有害性	蒸気を吸い込むと、めまい、感覚麻痺、歩行困難など多発性神経炎の症状を起こす恐れがある。 液体や蒸気に接触すると目、鼻、喉等の呼吸器官や粘膜、皮膚を刺激し炎症を起こす恐れがある。

#### 4. 応急措置

眼に入った場合	直ちに流水で15分以上洗眼し、もし異常を感じたら、医師の手当を受ける。必要な場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染した衣服を脱ぎ、触れた部位を多量の水、又は石鹼で洗い流す。もし、皮膚に炎症を生じた時は医師の手当てを受ける。
吸入した場合	患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行う。
飲み込んだ場合	吐き出させるとかえって危険なので、直ちに医師の手当を受ける。

## 5. 火災時の措置

- 消火方法 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。また、延焼のおそれのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸用保護具を着用する。
- 消火剤 粉末、二酸化炭素、泡、水スプレーが有効である。

## 6. 漏洩時の措置

- ・ 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
- ・ 作業の際には必ず保護具（無浸透性手袋、安全眼鏡等）を着用する。
- ・ 風下で作業をしない
- ・ 少量の場合は、土砂等で吸着させて空容器に回収し、そのあとを多量の水で洗い流す。
- ・ 大量の場合は、漏洩した液は、土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、液の表面を泡等で覆い、できるだけ空容器に回収する。そのあとは多量の水を用いて洗い流す。この場合、液が河川等に排出されないように注意する。

## 7. 取扱い及び貯蔵上の注意

## 取扱い

- ・ 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
- ・ 蒸気の発散をできるだけ抑える。
- ・ 容器を密封し、または局所排気装置を設置する。
- ・ 高温物、スパーク、火災を避け、強酸化剤との接触を避ける。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の乱暴な取扱いをしない。
- ・ 使用済みの空容器は一定の場所を定めて集積する。

## 貯蔵

- ・ 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
- ・ 容器は直射日光を避け、冷暗所に密閉して貯蔵する。
- ・ ボイラー等熱源付近や可燃物の近くに置かない。
- ・ 酸化性物質、有機過酸化物等と同一場所に置かない。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 室内の取扱いは発生源の密閉化を行うか、又は局所排気装置を設置する。取扱い場所付近に安全シャワー、洗眼、うがい、手洗い装置を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 設定されていない。

## 許容濃度

成分	石油精製油	ミネラルスピリット	植物油
ACGIH TLV	5mg/m <sup>3</sup> (ミスト状)	100ppm	10mg/m <sup>3</sup> (ミスト状)
ACGIH STEL	10mg/m <sup>3</sup> (ミスト状)	—	—
OSHA PEL	5mg/m <sup>3</sup> (ミスト状)	500ppm	5mg/m <sup>3</sup> (粒子) 15mg/m <sup>3</sup> (合計粒子)

## 保護具

呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器
手の保護具	耐油性保護手袋
目の保護具	ケミカルゴーグル（液の飛散があるときは、さらに顔面覆いの防災面を着用）
皮膚及び身体の保護具	耐油性保護衣服、耐油性保護長靴、耐油性前掛け

## 9. 物理／化学的性質

外 観	透明琥珀色液体
臭 気	石油臭
pH	適用外
沸 点	232～371℃
水溶解性（%）	微量
引火点	54℃
蒸気密度（空気＝1）	空気より重い
比 重	1.05（15.6℃）
凍結点	-23℃

## 10. 安全性及び反応性

安定性	通常条件では安定。
避けるべき条件	加熱、火気に注意。
避けるべき物質	強酸化剤との接触を避ける。
有害な分解生成物	熱分解により二酸化炭素、塩化水素が発生する。

## 11. 有害性情報

## 石油精製油

皮膚腐食性/刺激性	中等度の刺激性および軽度の浮腫がみとめられた
呼吸器感作性	データなし
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	頭痛、吐き気、めまいなどの神経系への影響を示唆する症状および鼻の刺激性が認められた
標的臓器/全身毒性（反復暴露）	肝臓への影響、精子運動低下が認められた
吸引性呼吸器有害性	化学性肺炎を引き起こす可能性がある

## ミネラルスピリット

皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激性試験で重度の刺激性のデータあり
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	軽度の刺激性が認められた
発がん性	IARC の分類 Group1 がん発生情報あり

## プロパン・ブタン化合物

標的臓器/全身毒性（単回暴露）	麻酔作用を示唆する
-----------------	-----------

急性毒性（吸入：ガス）	マウス LC50 値（1 時間） 124000ppm
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	心筋の強心作用がみられる 感覚喪失、急性暴露では頻呼吸及び頻拍を起こす可能性がある ある
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示す

## 12. 環境影響情報

分解性	データなし。
蓄積性	データなし。
魚毒性	データなし。

## 13. 廃棄上の注意

産業廃棄物は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。投棄禁止。

## 14. 輸送上の注意

## 注意事項

- ・ 堅牢で容易に変形しない容器に入れ、漏れないことを確かめ、輸送。
- ・ 運搬に際しては転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国連分類 高圧ガス 可燃性ガス毒性なし クラス：2.1

国連番号 エアゾール：1950

## 15. 適用法令

- ・ 消防法 危険物第4類第2石油類（不水溶性液体）、危険等級Ⅲ、火気厳禁
- ・ 労働安全衛生法 有機溶剤（第三種有機溶剤）
- ・ 高圧ガス法 高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険な為、下記の注意を守ること。

1. 炎に向けて使用しないこと
2. ストーブやコンロ等、火気の付近で使用しないこと
3. 火気を使用している室内で、大量に使用しないこと
4. 温度が40℃以上になるところに置かないこと
5. 火の中に入れていないこと
6. 使い樹って捨てること

## 16. その他の情報

本製品安全データシート（MSDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、MSDSの中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、当社はMSDS記載内容について充分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。